

第105回全国高校野球選手権大会

ダブルエース 自信と悔しさ

本来の実力発揮できず

八学光星を支え続けてきた「ダブルエース」の面左腕が崩れた。先発の洗平比呂は3点を先制され、5回で降板。救援した岡本琉奨は6回に手痛い5点を奪われた。「ストロートの逆球が多く、変化球でカウントが取れなかった。ピンチを抑えられなかったのが悔しい」。本来の実力を発揮できず、岡本はうなだれた。

洗平は立ち上がりから右打者の内角、左打者の外角へ強気に攻める投球を披露。好発進した



かに見えた。

だが、三回に制球を乱して四球で走者をため、中軸に先制の適時打を許す。2、3回戦で計10回を投げ、無失点を続けてきた背番号1が初失点を喫した。

次打者に死球を与え、なおも2死満塁とピンチは続き、迎えるのは右打者の5番松田陽斗。洗平はここでも内角を隠せず突いたが、詰まりながらも左前へ2点打を浴びた。「コースには投げられていたが、少し高かった」と失投を悔やんだ。

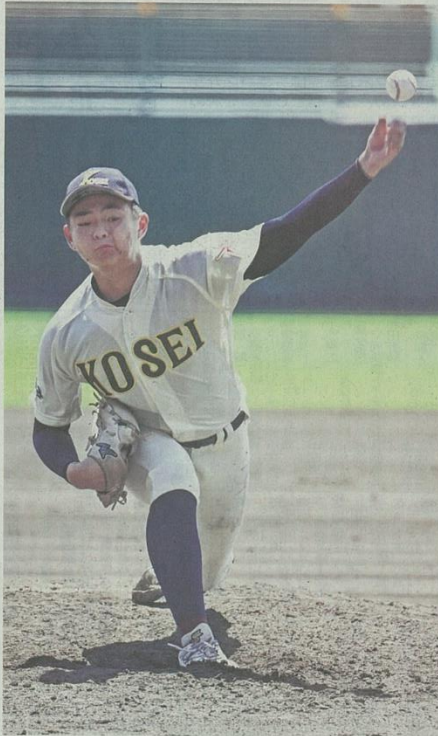
2・3の六回から継投した岡本は「比呂の分まで」と気合を

入れてマウンドへ。だが、いきなりの連打に外野手のミスも絡み、スクイズを防げず1失点。さらに、二つの四球を与えて2死満塁とされ、ストライクを取りにいった初球を右中間に運ばれた。痛恨の3点打で一気に突き放された。

青森大会から快進撃を見せたダブルエースは、まだ5年生だ。「ボールの質、球速、コントロールがまだまだ」と洗平。岡本は「もつとメンタルや下半身を強化しなければならない」と改善点を自己分析した。

「3年生のためにも、来年の夏は必ず全国制覇したい」。2人にとって、確かな自信も忘れられない悔しさも残る甲子園だった。

(千葉達也)



【土浦日大一八学光星】救援した八学光星の岡本琉奨は5失点を喫した



【土浦日大一八学光星】先発した八学光星の洗平比呂。5回3失点で降板した